

古仏語における否定の副詞 **ne** と不変化語 **pas, mie, point** について —*Aliscans* と *Eneas* における否定形—

武次 三愛
(東京外国語大学大学院博士前期課程)

1. はじめに

本稿の目的は、古仏語における否定の副詞 **ne** の単独使用及び **ne** と不変化語 **pas, mie, point** 等を組み合わせて行われる否定について、否定される動詞とその時制、使用される環境の関係を明らかにすることである。**pas** は 11~13 世紀の古仏語期に使用され始め、その後 **ne** の単独使用との競合を経て、現代ではそれを完全に駆逐している。**mie** は **pas** とほぼ同一の機能を果たすものとして、ピカルディー地方の文献に多く見られる。**point** は 12 世紀のテキストではまだ生起数は少ないものの、16 世紀に入るとその使用数が増え、いくつかのテキストでは **pas** の使用数を上回ることがあった。

2. 研究の手順

Corpus de la littérature médiévale (Champion Electronique, 2001) の中から *Aliscans* (およそ 1150-1200 年に成立、8185 行)、*Eneas* (およそ 1160 年に成立、10156 行) の二つの韻文を選び、否定の副詞 **ne** と、それと **pas, mie, point** を組み合わせて作られる否定形について調査した。*Aliscans* には A¹～A⁴、B¹～B²、C、D、E、F、M、S の全部で 12 の写本があり、このコーパスの中のテキストが採用しているのは A グループの写本である。フランス西部の方言の影響が見られるものの、標準的であると言える。¹ *Eneas* には A～I までの 9 個の写本があり、コーパス中のテキストは A 写本を採用している。方言としてはフランス西部、東部、またはアングロ・ノルマンなどの影響が見られる。²

これらの二作品中から **ne, pas, mie, point** を含む文を抽出した。その際、以下のような等位接続詞の **ne, ne...onques, ne...ja** などの、今回の調査対象となる否定形以外のものは除外した。

¹ Régnier, C. 1990, *Aliscans Tome I*, Librairie Honoré Champion. pp.7-26

² De Grave, J.-J. S. 1983, *Eneas Roman du XIIe siècle Tome I*, Honoré Champion. pp.3-20

- (1) n'avez **ne** foi **ne** l'eauté. [Aliscans, 1262]
あなたは信条も法も持っていない。
- (2) onc païen ne feri de son brant [Aliscans, 448]
なぜなら彼は、異教徒たちを剣で攻撃したことがなかったからだ、
- (3) en Orenge **ne** me verrez tornant. [Aliscans, 816]
あなたは決して私がオランジェに戻ってくるのを見ることはないだろう。

なぜこれらが調査対象から外れるかというと、これらは **ne** による単独否定や **ne...pas/mie/point** とは本質的に異なっているからである。実例として **onques** の場合を挙げる。

- (4) Granz sont vos plaies, ne finent de seignier; [Aliscans, 155]
あなたがたの傷は重い、出血は止まらない。
- (5) Onc Renoart ne fina de chapler, [Aliscans, 6244]
レヌアールは決して攻撃するのをやめなかつた、
- (6) De tant est plus mes cors dolanz,
quant tu **ne** m'ozi ne ne m'entenz; [Eneas, 6197-98]
私は、お前が私の言うことを聞かず、理解しない分ますます不幸なのだ。
- (7) Onc de bon mal n'oîr parler. [Eneas, 7938]
私は素晴らしい病気について話されるのを一度も聞いたことがない。

例 (4) と例 (6) において、副詞 **ne** は動詞の極性を変化させている。例 (4) については *Vos plaies finent de seignier.* (あなたがたの傷の出血は止まる。) を、例 (6) については *quant tu m'ozi et m'entenz* (お前が私の言うことを聞き、理解するので) という肯定文を想定することができる。つまり、これらの二つの文では、「出血が止まる」 → 「止まらない」、「言うことを聞き、理解する」 → 「聞かないし、理解もしない」というように否定の副詞 **ne** が動詞の持つ極性をプラスからマイナスへと変化させていると言える。一方例 (5) と例 (7) の **onques** (例中では **onc**) を使用した文では、上述の極性の変化だけでなく、**onques** により「決して」や「一度も」といった限定的・強意的意味が付け加わっている。これが例 (4), 例 (6) の **ne** の単独使用による否定とは違う点である。

それでは、**ne** のみによる否定と **ne...onques** を使用した否定以外の、**ne...pas/mie/point** ではどうなのであろうか。これら三つも、**onques** のように付加的な価値を持っているのだろうか。以下に動詞 *avoir* の否定文を挙げる。

(Aliscans)

- (8) N'avrai cheval par vos en mon vivant. (5684)
私の生きている間に、あなたによって馬がもたらされることはないだろう。
- (9) Quar a la mer **n'ai pas** chalant ne haigne; (645)
というのも、海では私は船も小舟も持っていないからだ。

- (10) Car n'avons **mie** loisir de reposer. (5888)
 というのも、私たちには休むような余裕はないからだ。
- (11) Trop par iés fous, n'as **point** d'umilité. (1492)
 君は愚かだ、謙虚さを持っていない。

(*Eneas*)

- (12) quant vos n'avez pitié de moi; (1804)
 なぜなら、あなたは私に対し憐れみを持っていないからだ。
- (13) en l'ost n'orent **pas** lor seignor; (5999)
 攻囲軍には指揮者がいなかった。
- (14) se Turunus voint, ne m'avra **mie**; (8331)
 もしトルヌスが勝ったとしても、私を手に入れることはないだろう。
- (15) çaianz n'as **point** de nostre roi, (4990)
 この城には我々の王はいない、

まず例(9)と例(13)のne...pasについては、neの単独使用の場合と同様に「船や小舟を持っている」→「船も小舟も持っていない」、「リーダーがいる」→「リーダーがない」というように極性がプラスからマイナスへと変化している。また例(10)と例(14)のne...mieにおいても、「休むような余裕がある」→「休むような余裕はない」、「私を征服するだろう」→「私を征服しないだろう」のように動詞avoirの極性が変化している。最後に例(11)と例(15)のne...pointであるが、これはpasとmieとは若干異なっている。というのも、例を見てもわかるように、ne...pointではその目的語となる名詞(例文中ではumilité, nostre roi)が前置詞deを伴っているためである。プライスは、このne...pointの機能を「名詞的」であるとした。³「名詞的」とは、pointが否定される動詞の目的語となる名詞の部分を示す前置詞deもしくはその代名詞enを伴い、point de~の形で動詞の目的語となることができるということに由来する。一方pasやmieを用いた否定は多くの場合aucunement(少しも~ない)やnullement(全く~ない)のように、動詞を修飾する形式をとりつつ否定を行う。この機能は「副詞的」であるとされる。⁴ただしmieはpointと同様に、否定される動詞の目的語となることもある。pasがそのように使用されることはある。

以上のことをまとめると、ne単独での否定とne...pas/mie/pointは、全く同様にとは言えないまでも、否定が関わる動詞の極性をプラスからマイナスへと変化させている。しかしながらne...onquesのような否定では、否定形が単に動詞の極性を変えているだけでなく、文の意味に「決して」のような価値を加えている。よって煩雑になるのを防ぐため、ne...onquesのような否定形は今回の調査対象からは除外した。

neによる等位接続、ne...onquesなどの他にも、次のような名詞として使用されているpas、

³ Price, G. «11. Negative particles in French», *De mot en mot. Aspects of medieval linguistics. Essays in honour of William Rothwell*, University of Wales, Cardiff, 1997, p.174.

⁴ 同上。

mie, point も除外した。

- (16) A genolz lo vit Eneas, avant ala tot son grant **pas**. [Eneas, 9775-9776]
エネアスはトゥルヌスがひざまずいたのを見て、大股で進み寄る。
- (17) Ne de blanc pein une **mie** adeser. [Aliscans, 2912]
ひとかけらの白パンにも触れていない。
- (18) Croiras tu **point** el roi Luciabel? [Aliscans, 6525]
お前は少しでもリュシアベル王を信じるつもりなのか。

3. 古仏語における否定形

現代フランス語では、否定は主に *ne...pas* の形でなされる。この否定形は、*je ne chante pas* というように、動詞を *ne* と *pas* で挟むことにより使用される。また口語においては、*ne* は非常に頻繁に省略され、*je sais pas* などのように *pas* のみで否定形がつくられる。

古仏語では、否定は主に *non* と *ne* という二種類の副詞により実現されていた。これらの副詞は動詞の前に置かれ、その動詞を否定することができた。*non* はラテン語の否定の副詞 *nōn* より引き継がれたもので、*ne* は音声的な弱化により *non* から生まれたものであると言われる。否定の意を表すためには、当初はこの二つの副詞のみで十分であった。しかしながら音声的な弱化により発生した *ne* は、それだけではアクセントを持つことができなかった。そのため、様々な名詞、副詞等と一緒に用いて否定の強調をするようになっていった。本稿で扱う *pas*, *mie*, *point* も否定の強調のために使用されるようになった語である。これらの語は元々は名詞であった。*pas* は「一步」、*mie* は「パンくず」、*point* は「点」を表していた。Buridant (2000) によると⁵、*pas* は移動に関する最小単位を、*point* は量的、時間的な最小単位を、そして *mie* は食物の最小単位を表していた。つまりこれらの語は、最初は名詞としての意味を保ちつつ、否定を強調していた。しかしこれらの語は次第に文法化し、名詞として元々持っていた意味は薄れ、否定の強調という役割を担うことが少なくなっていました。とは言え、*ne* による単独否定は 15 世紀終わりまで他の不変化語を用いた否定に比べ優勢であった⁶。

4. *Aliscans*, *Eneas* における *ne* の単独否定または *pas*, *mie*, *point* を用いて行われる否定と結びつく動詞とその法・時制について

以下では否定の副詞 *ne* を用いた否定形と、態や動詞の法・時制などについて考察を行う。

⁵ Buridant. C. 2000, *Grammaire nouvelle de l'ancien français*, Paris, SEDES. p.708

⁶ Marchello-Nizia. C. 1997, *La langue française aux XIV^e et XV^e siècles*, Paris, Nathan. p.302

4-1. 否定の副詞 ne を用いた否定について

表 1. 否定の副詞 ne を用いた否定の生起数とその割合

	ne単独使用	ne...pas	ne...mie	ne...point	その他	計
Aliscans	724(62.7%)	64(5.5%)	59(5.1%)	10(0.9%)	298(25.8%)	1155
Eneas	782(52.7%)	155(10.4%)	76(5.1%)	4(0.3%)	468(31.5%)	1485

(「その他」には ne...onques や ne...ja などが含まれる)

Aliscans, Eneas の二作品とも、ne のみによる否定が 62.7%, 52.7% と pas や point, mie を用いた否定よりも圧倒的に生起数が多い（表 1 を参照）。生起数という点から見れば、この二作品が成立した時代には、ne...pas/mie(point) が否定形としての確固たる地位をまだ獲得していなかったと考えることが可能である。

また ne...pas/mie(point) の頻度についてであるが、全体的に point を用いた否定の生起数が 0.9%, 0.3% と pas (5.5%, 10.4%) や mie (両作品とも 5.1%) を用いたそれに比べ圧倒的に少ない。これには、「2. 研究の手順」でも述べたように、point を使用した否定が「名詞的な働きをするということに関係すると考えられる。名詞的な否定は、目的語となる動詞の部分を示す前置詞を伴うという点で結びつく動詞の種類が、副詞的な否定の結びつく動詞に比べると限られてくる。例えば、

- (19) sor moi ne cort pas ses destroiz, [Eneas, 6649]
彼の強制は私の身には及ばない,

におけるように、目的語がなくとも意味が完結しうる自動詞と結びつくことはできない。また、

- (20) N'est pas merveille se vos estes lassez, [Aliscans, 739]
もしあなたが疲れ果てているとしても不思議ではない,

のような文中で、ne...pas を ne...point に変えることも難しい。もちろん、

- (21) Ci n'a point coardie! [Aliscans, 511]
弱気になるな。

のように ne...point が副詞的に使用されることもある。しかしながらこの時代はまだこの用法は一般的ではなかった。そのためテキストにおける生起数もそれ程多くならなかつたのではないだろうか。これは「4-3 否定と動詞の法・時制」で詳述するが、今回調査した二作品でも、ne...point により否定される動詞としては avoir が大半を占めていた。

ne...pas と ne...mie については、*Aliscans* ではそれぞれ全体の 5.5%, 5.1% と大差はなかつ

た。しかし *Eneas*においては ne...mie が全体の 5.1%であるのに対し, ne...pas はその倍近くの 10.4%となっていた。これについては方言の影響を考慮することが可能かもしれない。

4-2. 否定と態

**表 2. ne 単独使用, ne...pas/mie/point の能動態・受動態における出現頻度
(*Aliscans*)**

	ne 単独使用	ne...pas	ne...mie	ne...point	計
能動態	663 84.9%	62 7.9%	47 6.0%	9 1.2%	781
受動態	61 80.3%	2 2.6%	12 15.8%	1 1.3%	76

(*Eneas*)

	ne 単独使用	ne...pas	ne...mie	ne...point	計
能動態	759 76.9%	149 15.1%	75 7.6%	4 0.4%	987
受動態	23 76.7%	6 20.0%	1 3.3%	0 0.0%	30

表2によると, *Aliscans*では、能動態でも受動態でも、84.9%, 80.3%と ne の単独使用がその他の否定形よりも優勢である。ne の単独使用以外の否定については、能動態では ne...pas (7.9%), ne...mie (6.0%), ne...point (1.2%) の順になっており、4-1 で述べたように、ne...pas と ne...mie の間にはそれ程大きな開きは見られず、ne..point の生起数は非常に少ない。しかし、受動態では ne...mie が全体の 15.8%を占め、ne...pas (2.6%) を大きく上回った。

受動態における ne...point であるが、これは

(22) Entre tel gent dont **point** ne sui amee, [Aliscans, 2372]

私が愛されないような人々の間で,

というように、ne...point は前置詞 de+目的語を伴っていない。この用法は、これ以前にも述べたように珍しい用法である。

次に *Eneas*においてあるが、こちらもやはり能動態、受動態の両方とも ne の単独使用が 76.9%, 76.7%で他を大きく引き離している。能動態ではその後に ne...pas (15.1%), ne...mie (7.6%), ne...point (0.4%) の順に続いた。ne...point は受動態では生起していない。これには、4-1 でも触れたような ne..point の性質が関係していると考えられる。*Aliscans*で見られたような表現はこの時代にはまだ一般的ではない。この頃一般的であった用法である, (15) çaianz n'as **point** de nostre roi, [Eneas, 4990], 「この城には我々の王はいない」のような文を受動態にするのは不自然なことのように思われる。そのため ne...point の受動態での生起数がゼロもしくはあっても非常に少ないということが起こったのではないだろうか。

4-3. 否定と動詞の法・時制

以下は *Aliscans*, *Eneas* の二作品中で、ne 単独もしくは ne...pas/mie/point と組み合わされて否定をする動詞の法と時制を表にしたものである。表 3~6 は能動態、表 7~10 は受動態である。

表 3. ne 単独使用の場合の法・時制別頻度（能動態）

(*Aliscans*)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	306 (46.2%)	66 (10.0%)	119 (17.9%)	15 (2.3%)	21 (3.2%)	0 (0.0%)	46 (6.9%)	48 (7.2%)	0 (0.0%)	28 (4.2%)	14 (2.1%)	0 (0.0%)	663

(*Eneas*)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	386 (50.9%)	42 (5.5%)	109 (14.4%)	39 (5.1%)	44 (5.8%)	0 (0.0%)	46 (6.1%)	59 (7.8%)	0 (0.0%)	18 (2.4%)	10 (1.3%)	6 (0.8%)	759

表 4. ne...pas の法・時制別頻度（能動態）

(*Aliscans*)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	27 (43.5%)	2 (3.2%)	12 (19.4%)	4 (6.5%)	8 (12.9%)	4 (6.5%)	0 (0.0%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (4.8%)	0 (0.0%)	62

(*Eneas*)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	67 (45.0%)	12 (8.1%)	27 (18.1%)	21 (14.1%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	7 (4.7%)	0 (0.0%)	7 (4.7%)	5 (3.4%)	1 (0.7%)	149

表 5. ne...mie の法・時制別頻度（能動態）

(*Aliscans*)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	15 (31.9%)	6 (12.8%)	10 (21.3%)	1 (2.1%)	4 (8.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (17.0%)	1 (2.1%)	47

(Eneas)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単純過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	32 (42.7%)	19 (25.3%)	9 (12.0%)	5 (6.7%)	3 (4.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	2 (2.7%)	3 (4.0%)	0 (0.0%)	75

表 6. ne...point の法・時制別頻度（能動態）

(Aliscans)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単純過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	5 (55.6%)	0 (0.0%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9

(Eneas)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単純過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4

表 7. ne 単独使用の場合の法・時制別頻度（受動態）

(Aliscans)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単純過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	16 (26.2%)	2 (3.3%)	9 (14.8%)	2 (3.3%)			21 (34.4%)	8 (13.1%)		3 (4.9%)			61

(Eneas)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単純過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	7 (0.9%)	3 (13.0%)		1 (4.3%)			3 (13.0%)	7 (30.4%)		2 (8.7%)			23

表 8 ne...pas の法・時制別頻度（受動態）

(Aliscans)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単純過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計				1 (50.0%)			1 (50.0%)						2

(*Eneas*)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単純過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	7 (0.9%)	3 (13.0%)		1 (4.3%)			3 (13.0%)	7 (30.4%)		2 (8.7%)			23

表 9 *ne...mie* の法・時制別頻度（受動態）

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単純過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	11 (91.7%)		1 (8.3%)										12

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単純過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	1 (100.0%)												1

表 10. *ne...point* の法・時制別頻度（受動態）

(*Aliscans*)

	直説法						接続法			条件法	命令法	不定詞	計
	現在	未来	単純過去	半過去	複合過去	大過去	現在	半過去	大過去				
計	1 (100.0%)												1

**Eneas* では *ne...point* の受動態は生起していなかった。

能動態、受動態のどちらでも、*ne* 単独による否定は、*Aliscans*, *Eneas* のどちらにおいてもほぼ全ての法・時制で現れていた（表 3, 7 参照）。一方 *pas/mie/point* を用いた否定は、両作品において、*ne* 単独による否定とは異なり、主に直説法現在形で現れ、法・時制のバリエーションは比較的乏しいと言える（表 4～6, 表 8～10 参照）。このことから、*ne...pas/mie/point* を使用した否定は、まだ完全には文法化していなかったのではないかと考えられる。

4-4. 否定と動詞の種類

次の表は、*Aliscans*, *Eneas* の二作品中で、*ne* 単独もしくは *ne...pas/mie/point* と組み合わされて否定をする動詞の種類の表である。

表 11. ne 単独使用の場合の動詞種類別頻度（能動態）

(*Aliscans*)

	-ier/-er	その他	(il) i a	avoir	estre	pooir	voloir	valoir	oser	veoir	savoir	devoir
計	151 (22.8%)	101 (15.2%)	89 (13.4%)	58 (8.7%)	49 (7.4%)	43 (6.5%)	23 (3.5%)	20 (3.0%)	18 (2.7%)	18 (2.7%)	17 (2.6%)	15 (2.3%)

	faire	aler	avoir soin	avoir mestier	laier	avoir cure	laisser	avoir garde	estovoir	cesser	venir	計
計	14 (2.1%)	13 (2.0%)	8 (1.2%)	6 (0.9%)	5 (0.8%)	4 (0.6%)	3 (0.5%)	3 (0.5%)	3 (0.5%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	659

「-ier/er 動詞」 …amer, cuidier など。「他の動詞」 …dire, partir など。

(*Eneas*)

	その他	-ier/-er	pooir	avoir	estre	savoir	voloir	(il) i a	faire	aler	estovoir	oser
計	135 (17.8%)	109 (14.4%)	96 (12.6%)	86 (11.3%)	81 (10.7%)	76 (10.0%)	31 (4.1%)	24 (3.2%)	23 (3.0%)	16 (2.1%)	14 (1.8%)	12 (1.6%)

	devoir	avoir soin	avoir cure	venir	veoir	laier	cesser	avoir talent	avoir mestier	laisser	avoir garde	avoir besoin	計
計	9 (1.2%)	9 (1.2%)	7 (0.9%)	7 (0.9%)	7 (0.9%)	4 (0.5%)	4 (0.5%)	3 (0.4%)	3 (0.4%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	759

「-ier/er 動詞」 …amer, cuidier など。「他の動詞」 …croire, partir など。

表 12. ne...pas の動詞種類別頻度（能動態）

(*Aliscans*)

	estre	-ier/er	avoir	voloir	faire	その他	devoir	pooir	aler	valoir	venir	計
計	24 (38.7%)	13 (21.0%)	7 (11.3%)	4 (6.5%)	3 (4.8%)	3 (4.8%)	2 (3.2%)	2 (3.2%)	2 (3.2%)	1 (1.6%)	1 (1.6%)	62

「-ier/er 動詞」 …oublier, redoter など。「他の動詞」 …convenir, foir など。

(*Eneas*)

	estre	-ier/-er	その他	voloir	devoir	pooir	faire	savoir	aler	venir	oser	laier	veoir	avoir	estovoir	計
計	31 (20.8%)	29 (19.5%)	23 (15.4%)	16 (10.7%)	13 (8.7%)	11 (7.4%)	5 (3.4%)	5 (3.4%)	4 (2.7%)	4 (2.7%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	149

「-ier/er 動詞」 …doter, tarder など。「他の動詞」 …tenir, dormir など。

表 13. ne...mie の動詞種類別頻度（能動態）

(Aliscans)

	その他	-ier/-er	estre	aler	devoir	pooir	savoir	voloir	avoir	faire	計
計	16 (34.0%)	12 (25.5%)	6 (12.8%)	3 (6.4%)	2 (4.3%)	2 (4.3%)	2 (4.3%)	2 (4.3%)	1 (2.1%)	1 (2.1%)	47

「-ier/er 動詞」…esmaier, trover など。「他の動詞」…respondre, vestir など。

(Eneas)

	その他	-ier/-er	estre	pooir	avoir	faire	(il) i a	oser	devoir	laier	savoir	voloir	estovoir	計
計	17 (22.7%)	16 (21.3%)	9 (12.0%)	8 (10.7%)	7 (9.3%)	6 (8.0%)	4 (5.3%)	2 (2.7%)	2 (2.7%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	75

「-ier/er 動詞」…cuidier, doter など。「他の動詞」…oir, vivre など。

表 14. ne...point の動詞種類別頻度（能動態）

(Aliscans)

	avoir	-ier/-er	savoir	計
計	6 (66.7%)	2 (22.2%)	1 (11.1%)	9

「-ier/er 動詞」…esgruner, demorer など。

(Eneas)

	avoir	aler	il (i) a	計
計	2 (50.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	4

表 15. ne 単独使用の場合の動詞種類別頻度（受動態）

(Aliscans)

	-ier/er	その他	oser	veoir	計
計	45 (73.8%)	13 (21.3%)	2 (3.3%)	1 (1.6%)	61

「-ier/er 動詞」…eschaper, lever など。「他の動詞」…prendre, corir など。

(Eneas)

	-ier/er	その他	faire	venir	計
計	11 (47.8%)	10 (43.5%)	1 (4.3%)	1 (4.3%)	23

「-ier/er 動詞」…detrenchier, damner など。「他の動詞」…ocire, remettre など。

表 16. ne...pas の動詞種類別頻度（受動態）

(Aliscans)

ier/er 動詞…2 例

「-ier/er 動詞」…encombrer, celer など。

(*Eneas*)

	-ier/er	venir	その他	計
計	4 (66.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	6

「-ier/er 動詞」 …arester, navrer など。

表 17. ne...mie の動詞種類別頻度（受動態）

(*Aliscans*)

	ier-er	その他	計
計	11 (91.7%)	1 (8.3%)	12

「-ier/er 動詞」 …desreer, atorner など。「他の動詞」 …esbahir,

(*Eneas*)

partir…1 例

表 18. ne..point の動詞種類別頻度（受動態）

(*Aliscans*)

amer…1 例

* *Eneas* では ne...point の受動態は生起していなかった。

ne の単独使用に関しては、*Aliscans*, *Eneas* のどちらにおいても、順序は違うものの上位二つは「-ier/-er 動詞」（能動態では 22.8%, 14.4%, 受動態では 73.8%, 47.8%）、「他の動詞」（能動態では 15.2%, 17.8%, 受動態では 21.3%, 43.5%）が占めた（表 11, 表 15）。ほぼ全ての動詞がこの二種類のうちのどちらかに分類されるわけであるから、これは当然の結果である。ならば他の否定形についても同じことが言えそうであるが、実際にはそうではない。確かに能動態における ne...mie については *Aliscans*, *Eneas*において、「-ier/-er 動詞」は 25.5%, 21.3%, 「他の動詞」は 34.0%, 22.7%と頻繁に使用されている（表 13）。受動態では、*Aliscans*において、12 例中 11 例の動詞が「-ier/-er 動詞」であった（表 17）。また *Eneas*において能動態での ne...pas は、一番多いとは言えないまでも、「-ier/-er 動詞」は 19.5%，「他の動詞」は 15.4%とかなりの割合になっている（表 12）。受動態では ne...pas の生起数 6 例のうち 4 例が「-ier/-er 動詞」であった（表 16）。*Aliscans*における能動態では、ne...pas が一番多く結びついているのは estre (38.7%) であったが、その次に「-ier/-er 動詞」(21.0%) が続いている（表 12）。受動態では ne...pas の生起数 2 例ともが「-ier/-er 動詞」であった（表 16）。

しかしながら、能動態で ne...point と頻繁に使用されているのは、どちらの作品でも avoir の割合 (66.7%, 50.0%) が他を大きく引き離している（表 14）。これには、4-1 で述べたように、ne...point が「名詞的な否定」であることが関わっていると考えられる。それ以外の動詞については、*Aliscans* の能動態で、ne のみによる否定で高い頻度で現れた「(il) i a の否定」(13.4%) は注目すべき点である（表 11）。なぜなら、ne...pas/mie/point による「(il) i a

の否定」は見られなかったからである。

4-5. まとめ

以上のことまとめると、ne と pas や、mie, point を組み合わせて行われる否定はそれ程頻繁には用いられず、ne の単独使用の方がより多く使用されていることがわかる。つまり、ne の単独否定の方が否定形としては無標であり、ne...pas/mie/point の方が有標であると考えることができる。

それでは、何故 ne の単独使用の方が無標なのであろうか。先述したように、まずは原因として pas や mie, point が文法化して名詞から否定の不変化語になったとは言え、否定形としてはまだ完全に認識されていないということが想定される。しかし、否定形が関わる動詞の種類を見てもわかるように、ne の単独使用が優先される特定の環境というのも想定することができる。以下ではその状況について、Buridant による先行研究を踏まえつつ考察を行う。

5. ne の単独使用が好まれる環境について

以下のような分類に基づき、ne の単独使用、ne...pas/mie/point が現れる環境を調査した。

この分類は、Buridant (2000) の分類⁷に基づいたものである。それぞれの条件の下に、*Aliscans*, *Eneas* の二作品中に現れた例を示す。(太字部分は否定辞)

1. 接続法で表される節において

1. a. 従属節

(23) Ja n'iert mes jor que mes cuers **ne** se plaigne. [*Aliscans*, 1744]

私の心が悲しみで満たされない日はもうないだろう。

(24) an est venue a lui Pallas, qui est deesse de bataille, et pria li que **ne** li faille, [*Eneas*, 146-148]

戦いの女神パラスは彼のところへやってきた、そして必ず自分に有利な裁きをするよう懇願した、

1. b. 比較節

1. c. 状況を述べる節

(25) **Ne** le peüssent .II. vilains remüer. [*Aliscans*, 3756]

二人の農民でも、それ（武器）を動かすことはできなかっただろう。

(26) **Ne** fust la volanté as deus, [*Eneas*, 1769]

それは神の命令ではないだろう、

2. a. si により導かれる仮定節

(27) Se Sarrazin **ne** s'en tornent fuiant, [*Aliscans*, 4365]

もしサラセン人たちが逃れようとしないならば、

⁷ Buridant. C, 2000, *Grammaire nouvelle de l'ancien français*, SEDES. pp.706-707

- (28) se **ne** venist an ma contree li Troïens qui ma traïe, [Eneas, 2060-61]
もし私を裏切るあのトロイ人がこの国に来ていなかつたならば,

2. b. 希求節

2. c. 疑問節

- (29) «Desramez, sire, por quoi **ne** vos hastez? [Aliscans, 5200]
デラメ殿、あなたは何故急がないのですか。
(30) Por coi **ne** sui ge donc ocise? [Eneas, 1687]
では何故私は殺されないのでですか。

3. ne による等位接続を導く節

- (31) N'espargneré ne frere ne parant; [Aliscans, 5982]
私は兄弟も親も容赦しないだろう。
(32) mais il **ne** l'ot ne ne l'entent. [Eneas, 6146]
しかし彼はそれを聞かないし、聞こえない。

4. 文中で不確定な要素の否定

- (33) **Ne** fu tel dame des Adam et Evain. [Aliscans, 975]
アダムとイヴ以来、そのような女性はいなかつた。
(34) **ne** fu femme de son savoir. [Eneas, 3964]
彼女と同じ位の知識を持つ女性はいなかつた。

5. savoir, pooir, voloir, devoir の否定

- (35) Devant lor cops **ne** puetarme durer. [Aliscans, 5869]
武器は彼らの攻撃に耐えられない。
(36) quant vindrent ça si mesagier; tu **ne** la puez mialz anploier. [Eneas, 6662]
これ以上の姫の嫁がせ方はない。

6. cesser, oser といった動詞, avoir cure, avoir garde, avoir soin, avoir talent といった成句の否定

- (37) Vers Renoart **n'**oserent abiter: [Aliscans, 3993]
彼らはあえてレヌアールに近づこうとはしなかつた。
(38) vos avez la teche al vilain,
qui la androit fue son chien
ou il **n'**ose aler por rien, [Eneas, 6888-90]
お前は、あえて自分で行く勇気のない場所へ犬を駆り立てるような百姓の知恵を持っている。
(39) Li quen Guillelmes **n'**a cure de plaidier: [Aliscans, 1065]
ギヨーム伯は議論することを気にかけない。
(40) Ge **n'**en ai cure. [Eneas, 7940]
私はそのことには頓着しない。

7. (il) i a の否定

- (41) N'i a celui n'ait la targe faussee, [Aliscans, 269]

盾が壊れていない者はいなかつた。

- (42) n'i a de toz homes trois cenz ; [Eneas, 9620]

残っていた家来は 300 人である。

この分類は、Buridant (2000) の分類に基づいたものである。1. 接続法で表される節についてであるが、Buridant の分類ではこの中に従属節が含まれていない。だが、接続法で表される従属節中に否定形が頻繁に現れており、また文献によれば、ne の単独使用が好まれる環境の中に接続法で表される従属節を入れているものもある。⁸また、作品中の生起数も多い。そのため本稿では分類の中に含めた。また 1. c. 接続法で状況が述べられる節については、Buridant による具体的な説明を見つけることができなかつたため、本稿では、例として示したようなものを指すと捉えた。つまり、

- (25) Ne le peüssent .II. vilains remüer. [Aliscans, 3756]

二人の農民でも、それ（武器）を動かすことはできなかつただろう。

この文において、著者は動詞 *pooir* を接続法半過去形にすることにより、「農民が二人いたとして、その二人がかりでも武器を動かすことはできなかつただろう。」という著者の主観的判断に基づく叙述を形成している。もちろんこれは Buridant が “les circonstancielles au subjonctif” という表現で示すものからは逸脱する可能性がある。しかし直説法ではなく接続法を用いて状況を述べるということは、そこに語り手による主観というものを考慮する必要があると思われる。よって本稿では「主観的判断に基づき状況を述べる節」を上記の文のようなものと捉えた。

以下は *Aliscans*, *Eneas* 両作品において ne の単独使用、ne...pas/mie/point が現れる環境を表したものである（表 19～24）。

**表 19. *Aliscans*, ne の単独使用が推奨される環境における生起数, *savoir*, *pooir*, *cesser*などの動詞や *avoir* を用いた成句, (il) i a の否定をするもの
（「5. ne の単独使用が推奨される環境について」参照）**

Aliscans	<i>savoir</i>	<i>pooir</i>	<i>voloir</i>	<i>devoir</i>	<i>cesser</i>	<i>oser</i>	<i>avoir besoin</i>	<i>avoir cure</i>	<i>avoir garde</i>	<i>avoir soin</i>	<i>avoir mestier</i>	<i>avoir talent</i>	<i>il i a</i>	
ne 単独使用	9	32	20	11	1	15			4	2	8	3		24
pas		1	3	1										
mie	1	1	3	1										
point	1													

⁸ Hasenohr. G, 1990, *Introduction à l'ancien français*, SEDES. p.326 (カッコ内は筆者)
«a) il (=ne) nie un verbe au subjonctif. Il figure alors presque toujours en proposition subordonnée.»

表 20. *Aliscans*, *ne* の単独使用が推奨される環境における生起数, 接続法で表される節, *ne* による等位接続を導く節などにおいて, または文中で不確定な要素の否定をするもの

<i>Aliscans</i>	従属節 (接続法)	比較節	状況を述べる節	仮定節	希求法	疑問節	<i>ne</i> による等位接続	文中不確定
<i>ne</i> 単独使用	82	1	17	56		3	32	9
<i>pas</i>				1			2	
<i>mie</i>			1					
<i>point</i>								

なお, 条件が二つ以上重複した環境で現れているものもあった。これらについては, どの条件が否定形に影響を与えているのかの判別がしかねるため, 別に表にした(表 21, 24)。

表 21. *Aliscans*, 上記の条件が重複している生起数

<i>Aliscans(ne)</i>	従属節 (接続法)	比較節	状況を述べる節	仮定節	希求法	疑問節	<i>ne</i> による等位接続	文中不確定
savoir						1	3	
pooir			1	1			8	
voloir				5				
devoir							1	
cesser								
oser							1	
avoir cure								
avoir garde								
avoir mestier								
avoir soin								
avoir talent								
il i a	1						7	57
従属節(接続法)					2		1	
比較節								
状況を述べる節							1	
仮定節							1	
希求法								
疑問節								
<i>ne</i> による等位接続	1			1				1
文中不確定								

Aliscans(pas)	従属節 (接続法)	比較節	状況を 述べる節	仮定節	希求法	疑問節	neによる 等位接続	文中不確定
pooir			1					
devoir			1					

Aliscans(mie)	従属節 (接続法)	比較節	状況を 述べる節	仮定節	希求法	疑問節	neによる 等位接続	文中不確定
savoir							1	
devoir							1	

二つの条件だけでなく、条件が三つ重複しているものもあった。

oser+状況を述べる節+疑問節…1例

(43) Cuidiez vos ne fusse si osez

Ne vos touchasse por Guillelme au cor nez? [Aliscans, 4539-40]

あなたは、私が短鼻のギヨームのためにあえてあなたを傷つけないとと思っているのですか。

「il i a+文中で不確定な要素の否定+ne の等位接続を導く」は2例あり、そのうちの1例は次のようなものであった。

(44) N'i a si cointe ne de tel baronie

Qui sa parole ne sa reson desdie, [Aliscans, 3279-80]

彼の言葉や話に抗議するような、勇気のある者も賢明な者もいない、

表 22. *Eneas*, *ne* の単独使用が推奨される環境における生起数, *savoir*, *pooir*, *cesser*などの動詞や *avoir* を用いた成句, (il) i a の否定をするもの

Eneas	savoir	pooir	voloir	devoir	cesser	oser	avoir besoin	avoir cure	avoir garde	avoir soin	avoir mestier	avoir talent	il i a
ne 単独使用	61	65	23	5	1	8	2	7	1	10	3	2	17
pas	5	11	14	10		2							
mie	1	8	1	1		2							4
point													1

表 23 *Eneas*, *ne* の単独使用が推奨される環境における生起数, 接続法で表される節, *ne*による等位接続を導く節などにおいて、または文中で不確定な要素の否定をするもの

<i>Eneas</i>	従属節 (接続法)	比較節	状況を 述べる節	仮定節	希求法	疑問節	<i>ne</i> による 等位接続	文中不確定
ne 単独使用	54	1	22	41		20	48	2
pas			5	1			3	
mie	1					1	1	
point	1							

表 24. *Eneas*, 上記の条件が重複している生起数

<i>Eneas(ne)</i>	従属節 (接続法)	比較節	状況を 述べる節	仮定節	希求法	疑問節	<i>ne</i> による 等位接続	文中不確定
savoir				3		2	5	
pouvoir			3	4		2	13	1
vouloir				3			2	
devoir						1	1	1
cesser							2	
oser			1				2	
avoir cure								
avoir garde								
avoir mestier							1	
avoir soin								
avoir talent							1	
il i a	1			2			5	20
従属節 (接続法)						1	2	
比較節								
状況を述べる節							2	
仮定節								
希求法								
疑問節				2				
<i>ne</i> による等位接続			1					1
文中不確定			1					

<i>Eneas(pas)</i>	従属節 (接続法)	比較節	状況を 述べる節	仮定節	希求法	疑問節	<i>ne</i> による 等位接続	文中不確定
vouloir							1	
<i>ne</i> による等位接続								1

devoir			2					
--------	--	--	---	--	--	--	--	--

Eneas(mie)	従属節 (接続法)	比較節	状況を 述べる節	仮定節	希求法	疑問節	ne による 等位接続	文中不確定
devoir				1				

Aliscans の場合と同様、三つ以上の条件の重複が見られた。詳細は次の通りである。
「(il) i a の否定 + 文中で不確定な要素の否定 + ne による等位接続を導く」は 3 例ありそのうちの 1 例は以下の通りである。

- (45) n'i a celui cierge ne port
et ne face armes porter
por plus segurement aler. [Eneas, 6140-42]
安全に進むためのろうそくを持たない者や武器を持たない者はいない。

「pooir + 従属節（接続法）+ ne による等位接続を導く」は 2 例で、そのうちの 1 例は次のようなものであった。

- (46) molt ert luisanz et molt ert dure, qu'el ne peüst estre antamee ne par lance ne par espee;
[Eneas, 4452-54]
その盾は輝いており、とても硬いため、槍でも剣でも傷つけることはできない。

oser + 従属節（接続法）+ 疑問節…1 例

- (47) Com puet remaindre, qui batuz est, qu'il ne s'ost plaindre? [Eneas, 8963-64]
傷を負わされて、どうして文句を言わずにいられるだろうか。

pooir + 状況を述べる節 + ne による等位接続を導く節 + 文中で不確定な要素の否定…1 例

- (48) nes peüst faire hom mortaus, ne il puis teles ne feist, [Eneas, 4415-13]
その武器は死すべき人間に作ることの出来るようなものではなく、ヴルカンでさえこれだけのものは二度と出来なかっただろう。

6. 考察

「接続法で表される節、ne による等位接続を導く節などにおいて、または文中で不確定な要素の否定」については、*Aliscans*, *Eneas* のどちらにおいても ne の単独使用の方が圧倒的に優勢である（表 20, 23）。また *Aliscans* では「savoir, pooir, cesser などの動詞や avoir

を用いた成句, (il) i a の否定」についても ne の単独使用が優位に立っている（表 19）。しかしながら *Eneas* に関しては、「savoir, pooir, voloir, devoir の否定」で状況が異なっている（表 22）。中でも devoir については

- (49) Feme ne se doit pas combattre, [Eneas, 7076]

女性は戦ってはならない,

のような, ne...pas による否定（10 例）が ne の単独使用による否定の数（5 例）を上回っている。

今回調査した二作品においては、接続法で表される節における否定という統語論的な環境、または条件 7 の「(il) i a の否定」では ne の単独使用が無標であり、ne...pas/mie/point は生起数の点で有標であった。このことについては意味に関する「潜在性」が関係していると考えられる。動詞 pooir, voloir, devoir などに関する「潜在性」についてはしばしば述べられている。⁹ 例えば, Il peut chanter.（彼は歌うことができる。）という文に関して、これは Il chante.（彼は歌う。）という現実を述べる文とは異なる。前者には話し手の主観的な判断、彼が歌うという命題内容に対する、話者の心的態度が介入するからである。つまり、「彼が歌う」という事実がありうると考える話者の判断が加わっている。このことに関連して、(il) i a という表現の否定について考えてみる。Aliscans では、(il) i a の否定と文中で不確定な要素の否定という二つの条件が重なる場合が 57 例あった（表 21）。これは、(il) i a の否定 89 例中の大半を占めている。これらの否定文は、

- (50) Soz ciel n'a home qui n'en eüst peor. [Aliscans, 32]

そのことに対して恐怖を抱かなかつたものは一人もいなかつた。

のように、誇張の意を表すために例え話の形をとっている。そしてこれもやはり、事実をそのまま述べたものというよりも、著者の主観的な認識が関係していると考えられる。また *Eneas* においても、

- (51) n'avra home an la compaigne des Troïens qui ne s'en plaigne : [Eneas, 7781-82]

トロイ人たちの国には、そのことを嘆かないような者はいないだろう。

のような、(il) i a の否定と文中で不確定な要素の否定という二つの条件が重なる場合が 20 例あった（表 24）。「(il) i a の否定」は全部で 53 例であるので、この生起数は Aliscans 程は大きな割合を占めない。しかし *Eneas* においても上記のような例文を考慮すれば、(il) i a という表現について「潜在性」との関連性を想定することは可能ではないだろうか。

⁹ Queffélec, A., «Négation et verbes puissanciels en ancien français», *Actes du XVIIe congrès international de linguistique et philologie romanes*, Aix-en-Provence, 1983, Presses de l'Université de Provence, 1986, p559«Cette explication de la sur-représentation de *ne* seul par la virtualité sémantique des verbes puissanciels nous semble tout à fait convaincante : »

一方、「savoir, cesserなどの動詞や avoir を用いた成句の否定」のような動詞に関する環境では、ne の単独使用と ne...pas/mie による否定との間の有標・無標の区別はそれ程はっきりとしていないと考えることができる。

7. 今後の課題

本稿ではまず、ne の単独使用が好まれる環境について、*Aliscans, Eneas* の二作品中で否定される動詞の種類やその法・時制について調査を行った。その結果、ほぼ全ての環境で ne の単独使用が好まれていることがわかった。また、ほぼ同じ機能を果たす ne...pas と ne...mie については、結びつく動詞やその法・時制の間に大きな差はなかった。しかしながら、*Eneas* における受動態の否定については、ne...mie の生起数は ne...pas の生起数を大きく上回った。ne...point の生起数は、いずれの場合でも非常に少なかった。

次に Buridant による先行研究を踏まえつつ、ある統語論的な環境や特定の語彙といった点で調査を行った。この調査では、ある特定の統語論的・語彙的な環境においては ne の単独使用が優先されることがわかった。この先行研究を踏まえた調査において、二つ以上の条件が重なる環境における否定というものがあることがわかった。Buridant はそれ以外にも ne の単独使用が好まれる環境に *savoir, voloir, pooir, devoir* などの動詞の否定を挙げていたが、これについては必ずしもそうではないことがわかった。特に *Eneas* における *devoir* の否定では、ne...pas が ne のみによる否定を大幅に上回った。

なお、今回は一つの条件についてしか考察を行わなかつたが、否定形とそれが現れる環境をはつきりさせるためには、「(il) i a の否定」+「文中で不確定な要素の否定」のようにいくつかの条件が重なる環境での否定に関する考察を行う必要があると考えられる。また、今回調査対象とした二作品はどちらも韻文であるが、散文における否定形についても検討する必要がある。

参考文献

(コーパス)

Corpus de la littérature médiévale, Champion Electronique, 2001.

(校訂本、翻訳)

De Grave, J.-J. S. 1983, *Eneas Roman du XIIe siècle TomeI*, Honoré Champion.

_____, 1983, *Eneas Roman du XIIe siècle TomeII*, Honoré Champion.

Guidot. B et Subrenat. J. 1993, *Aliscans Traduit en français moderne*, Honoré Champion.

Régnier. C. 1990, *Aliscans TomeI*, Honoré Champion.

_____, 1990, *Aliscans TomeII*, Honoré Champion.

Thiry-Stassin, M. 1985, *Le roman d'Enéas traduit en français moderne*, Honoré Champion.

(研究)

- Bossuat. R, Pichard. L, et de Lage. G. R, 1992, *Dictionnaire des lettres françaises Le Moyen Age*, FAYARD.
- Buridant. C. 2000, *Grammaire nouvelle de l'ancien français*, SEDES.
- Gregory. S. « 3.Negative particles in French prose of the twelfth century », *De mot en mot. Aspects of medieval linguistics. Essays in honour of William Rothwell*, University of Wales, Cardiff, 1997, pp.37-51
- Greimas. A, J. 2001, *Dictionnaire de l'ancien français*, Larousse.
- Hasenohr. G. 1990, *Introduction à l'ancien français*, SEDES.
- Marchello-Nizia. C. 1997, *La langue française aux XIVe et XVe siècles*, Nathan.
- Ménard. P. 1988, *Syntaxe de l'ancien français*, Bière.
- Moignet. G. 1979, *Grammaire de l'ancien français Morphologie-Syntaxe*, Klincksieck.
- Price, G. «Aspects de l'histoire de la négation en français», *Actes du XVIIe congrès international de linguistique et philologie romanes, Aix-en-Provence, 1983*, Presses de l'Université de Provence, 1986, pp.567-75
- Price, G. «11. Negative particles in French», *De mot en mot. Aspects of medieval linguistics. Essays in honour of William Rothwell*, University of Wales, Cardiff, 1997, pp.173-190
- Queffélec, A. ««Négation et verbes puissanciels en ancien français», *Actes du XVIIe congrès international de linguistique et philologie romanes, Aix-en-Provence, 1983*, Presses del'Université de Provence, 1986, pp.555-565

ガストン・ザンク著、岡田真知央訳『古仏語[11-13世紀]』(白水社、1994年)

原野昇、村上勝也、太古隆治、中川正弘、前田弘隆、今田良信訳『エネアス物語』(渓水社、2000)